

令和6年度 富谷市ひきこもりに関する生活状況アンケート調査結果（概要版）

～調査目的～

市内全ての世帯を対象に、ひきこもり状態にある方の支援ニーズを把握し、今後の支援・施策展開へ活用することを目的として調査を行いました。
※ここでいうひきこもり状態の方とは、仕事や学校にいかず、かつ家族以外の方との交流をほとんどせずに6か月以上続けて家庭にとどまっている状態をいい、市内在住の15～64歳を対象にしています

～調査概要～

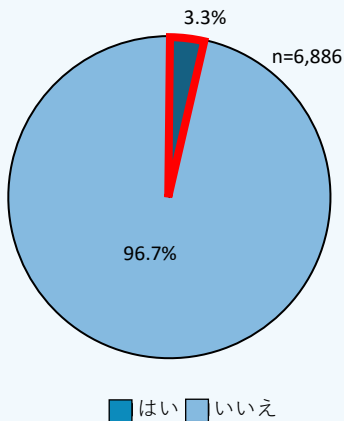
調査対象：富谷市内全ての世帯20,589世帯（基準日令和6年7月10日時点）
下記の「2. 本人の年齢」以降は「1. ひきこもり状態にある方の有無」の回答が「はい」の方（市内在住の15～64歳のひきこもり状態にあるご本人またはそのご家族）
調査期間：令和6年8月30日（金）～令和6年9月30日（月）※10月11日（金）回収分までを集計に含めています
調査方法：郵送配布／郵送及びWEB回答を併用し回収
回 収 率：33.4%（有効回答数：6,886件）

～調査結果の見方～

○nは回答割合算出における母数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表しています。
○回答割合は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても100.0%にならない場合があります。また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を母数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると100.0%を超える場合があります。
○回答者で分けて比較分析をする場合、『本人』は本調査中の回答者の設問で「ひきこもり状態にある方（ご本人）」と回答し、『本人以外』は「同居のご家族」「別居のご家族」及び「その他」と回答した方の合計としています。

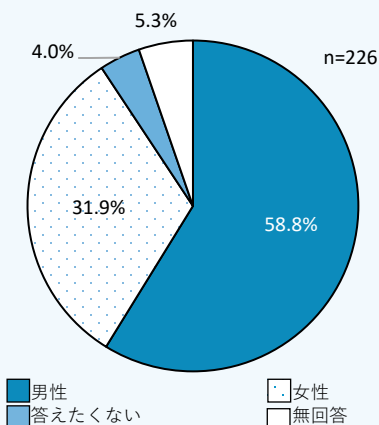
1. ひきこもり状態にある方の有無

「はい」が3.3%（226人）、「いいえ」が96.7%（6,660人）となっています。



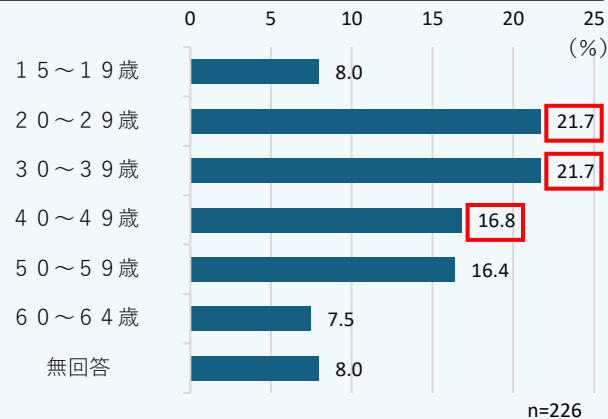
3. 本人の性別

「男性」が58.8%、「女性」が31.9%となっています。



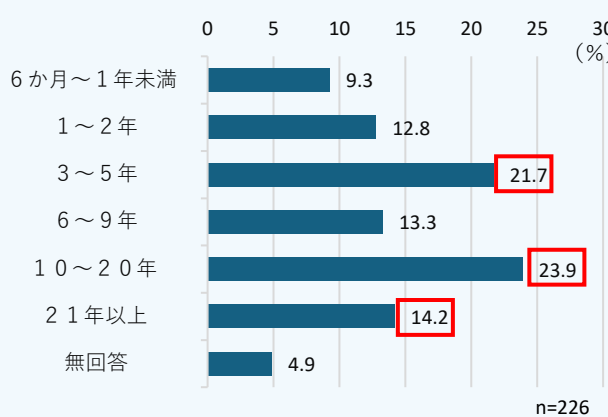
2. 本人の年齢

「20～29歳」及び「30～39歳」がいずれも21.7%と最も高く、次いで「40～49歳」（16.8%）となっています。



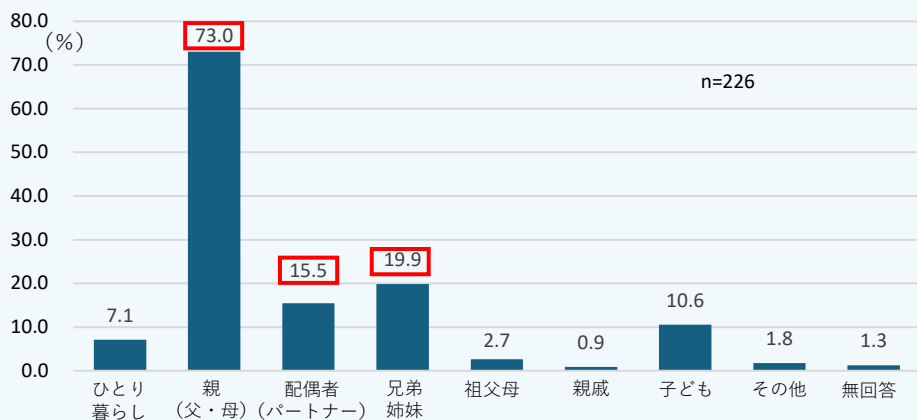
4. ひきこもり期間

「10～20年」が23.9%と最も高く、次いで「3～5年」（21.7%）、「21年以上」（14.2%）となっています。



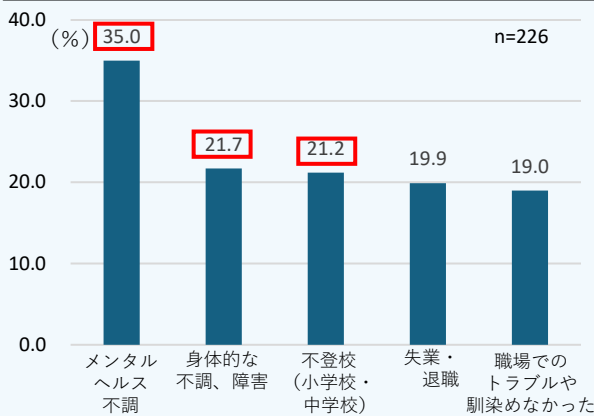
5. 本人と同居している家族（複数回答）

「親（父・母）」が73.0%と最も高く、次いで「兄弟姉妹」（19.9%）、「配偶者（パートナー）」（15.5%）となっています。「ひとり暮らし」については、が7.1%となっています。



6. きっかけ（上位5位）

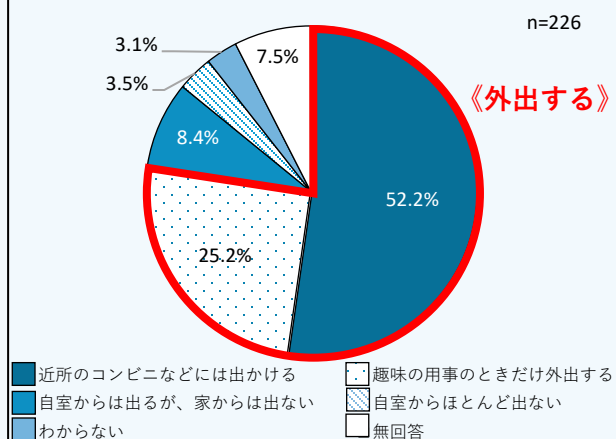
「メンタルヘルス不調」が35.0%と最も高く、次いで「身体的な不調、障害」（21.7%）、「不登校（小学校・中学校）」（21.2%）となっています。



7. 外出状況

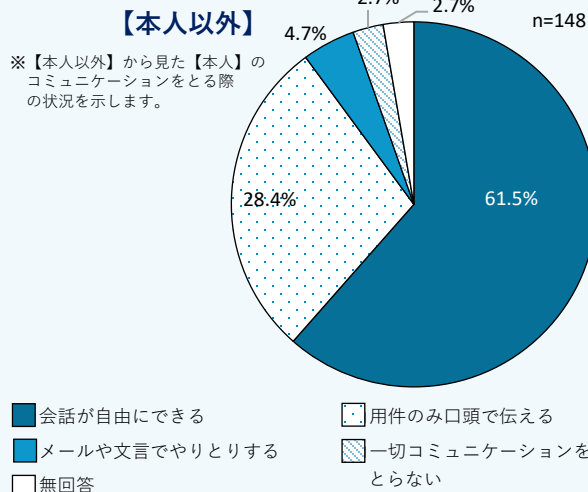
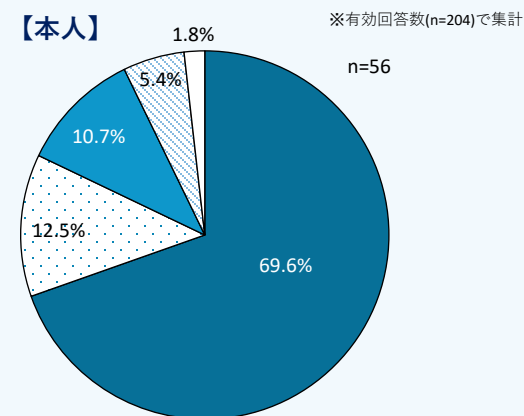
「近所のコンビニなどには出かける」が52.2%と最も高く、次いで「趣味の用事のときだけ外出する」（25.2%）となっています。

《外出する》（上記の合計）は7割を超えています。



8. 本人のコミュニケーションをとる際の状況

本人、本人以外ともに「会話が自由にできる」（本人：69.6%、本人以外：61.5%）が最も高く、次いで「用件のみ口頭で伝える」（本人：12.5%、本人以外：28.4%）、「メールや文言でやりとりする」（本人：10.7%、本人以外：4.7%）となっています。

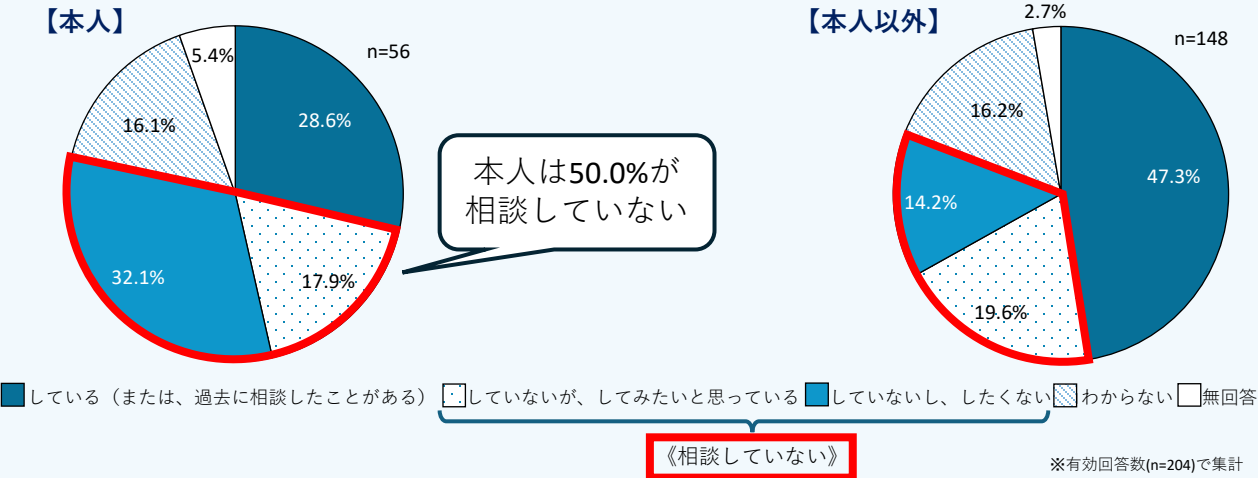


令和6年度 富谷市ひきこもりに関する生活状況アンケート調査結果（概要版）

9. 相談機関への相談状況

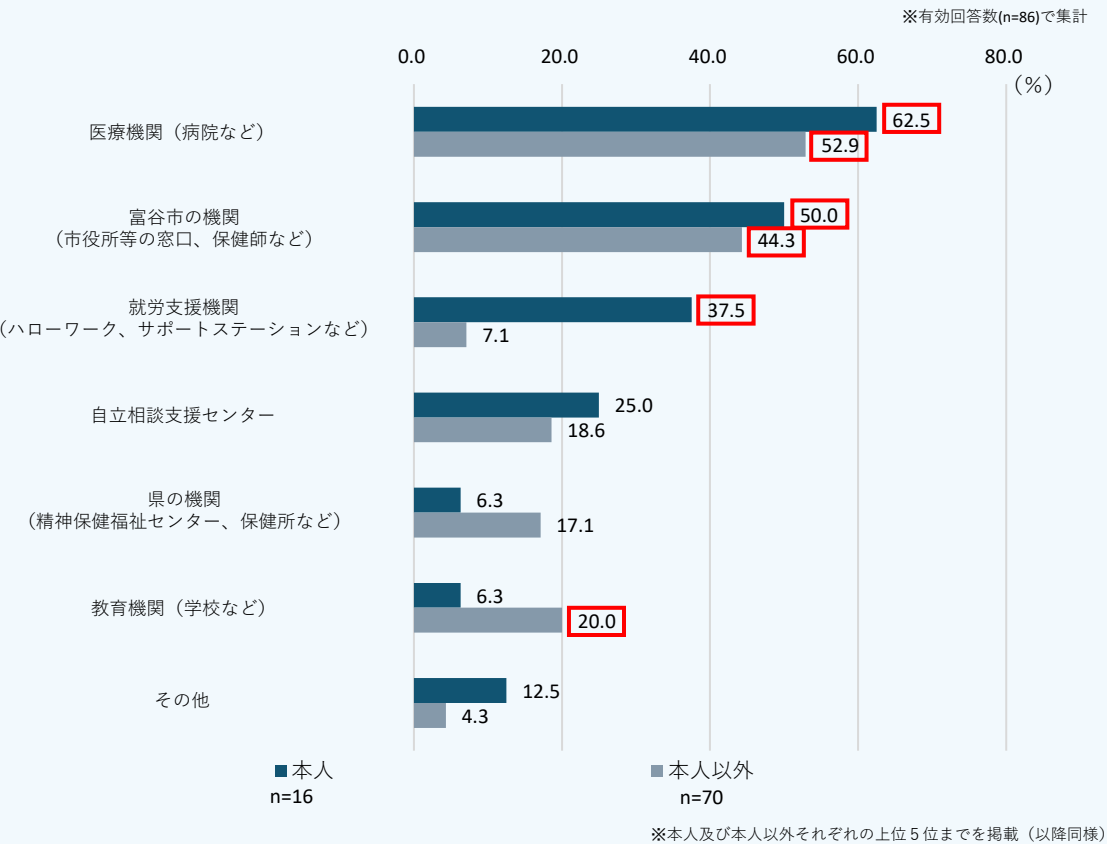
- ・本人と本人以外とは、相談状況の該当割合に違いがみられます。
- ・《相談していない》（「していないが、してみたいと思っている」+「していないし、したくない」の合計）が本人では50.0%と半数が相談していない状況となっています。

回答(一部抜粋)	本人	本人以外
「している（または、過去に相談したことがある）」	28.6%	47.3%
「していないが、してみたいと思っている」	17.9%	19.6%
「していないし、したくない」	32.1%	14.2%



10. 相談先（上位5位※）

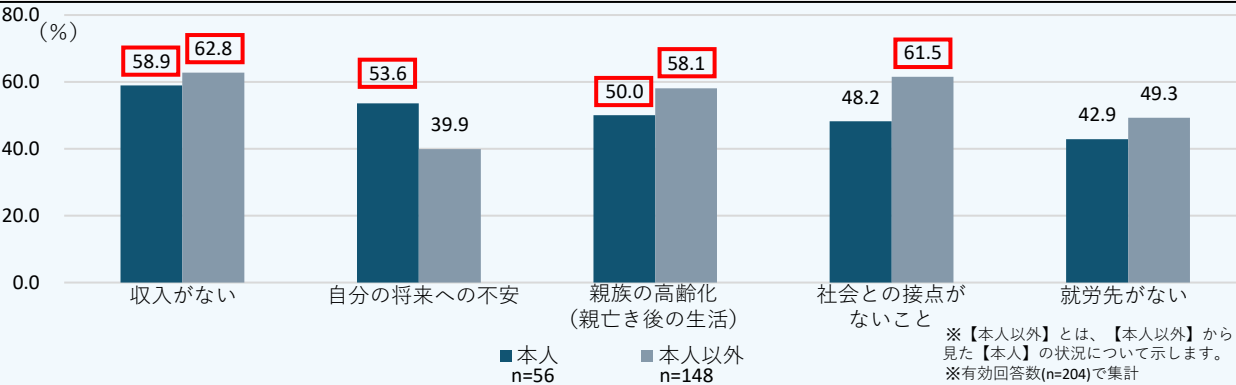
- ・本人、本人以外ともに「医療機関（病院など）」（本人：62.5%、本人以外：52.9%）が最も高くなっています。
- ・次いで「富谷市の機関（市役所等の窓口、保健師など）」（本人：50.0%、本人以外：44.3%）となっています。
- ・第3位は、本人では「就労支援機関（ハローワーク、サポートステーションなど）」（37.5%）、本人以外では「教育機関（学校など）」（20.0%）となっており、第3位は本人の相談先と違いがみられます。



11. 本人や家族の不安や困りごと（上位5位）

- ・本人、本人以外ともに「収入がない」（本人58.9%、本人以外：62.8%）と最も高くなっています。
- ・次いで、本人では「自分の将来への不安」（53.6%）、「親族の高齢化（親亡き後の生活）」（50.0%）となっています。本人以外では「社会との接点がないこと」（61.5%）、「親族の高齢化（親亡き後の生活）」（58.1%）となっています。

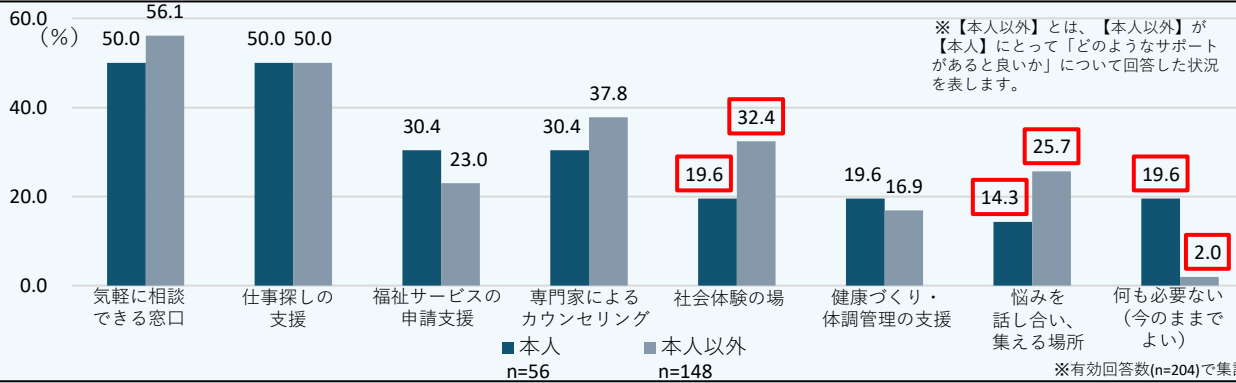
本人と本人以外の回答を比較すると、本人では「自分の将来への不安」が本人以外に比べ13.7ポイント高くなっている一方、本人以外では「社会との接点がないこと」が本人に比べ13.3ポイント高くなっています。



12. どのようなサポートがあると良いか(上位5位)

- ・本人、本人以外ともに「気軽に相談できる窓口」（本人：50.0%、本人以外：56.1%）や「仕事探しの支援」（本人：50.0%、本人以外：50.0%）が高くなっています。
- ・本人では次いで「福祉サービスの申請支援」及び「専門家によるカウンセリング」（いずれも30.4%）、本人以外では「専門家によるカウンセリング」（37.8%）となっています。

本人と本人以外の回答を比較すると、本人では「何も必要ない（今のままでよい）」が本人以外に比べ17.6ポイント高くなっている一方、本人以外では「社会体験の場」及び「悩みを話し合い、集える場所」が本人に比べ10ポイント以上高くなっています。



13. 本人や家族へ届きやすいと考える情報提供の方法(上位5位)

- ・本人、本人以外ともに「市広報誌」（本人：51.8%、本人以外：58.8%）が最も高く、次いで「市公式ホームページ」（本人：39.3%、本人以外：32.4%）、「チラシ（公共機関、店舗等）」（本人：35.7%、本人以外：22.3%）となっています。

